

上海人とゆく上海街歩き

街をもっとよく知るため、ぶらり散歩に出かけよう—今回は現地上海人の方により街歩きの仕方を教えてもらいつつ、変わりゆく街並みをガイドしてもらいました。

● 街歩きを楽しむコツは？ ●

一、歴史を掘り下げる

上海には歴史的建築物がたくさんある。歴史を知っておくとより楽しめる

一、変わりゆく街並みを感じる

都市開発で刻一刻と変わる街並み。今しか見られない上海の姿を探す

一、完璧さを求めない

街歩きに完璧なガイドは必要ない。自分の目で見る街角や風景に発見がある

● 胡さんオススメスポット ●

▼いわずとした観光スポットだが、日系企業の跡地があることは意外と知られていない



▲日本にゆかりの深い魯迅。「内山書店」など中日友好の軌跡が残る



外灘エリア



▲中国著名人の住まいがあり、中国の近代史を知りたいならオススメのスポット



● 今回の案内人 ●
「回想上海」ボランティアガイド 胡秋興さん

ガイドのために書きためた資料。下見も重ね歩くルートを考える。



1957年上海市生まれ。大学院で日本語を学び、日系アパレル会社の上海事務所長を務める。

定年退職後、日本で受けてきた数々の親切の恩返しをしたいと、2018年からボランティアガイドグループ「回想上海」を足踏。これまで25組以上の日本人を連れて、市内や、朱家角などの観光名所を案内してきた。趣味は日本の俳句創作。

街歩きの楽しみとは

中日友好のボランティアガイド

上海の建築物や街並みを眺めながら、のんびりと散歩する「City Walk」。飾らないディープな上海の姿を知れるとして、外国人や中国人にも人気のツアーだ。

この「City Walk」をボランティアで行っている上海人がいる。街歩きサークル「回想上海」を運営している胡秋興さんだ。

上海生まれの胡さんは大学院で日本語を学び、日系アパレルで長年勤めてきた。これまで日本出張や日本への旅行で「道に迷った時にわざわざ車で送り届けてくれた」などたくさんさんの親切を受けてきたという。定年後恩返しをしたいと、上海在住の日本人に向けてボランティアガイドを始めたそうだ。

ガイドでは基本、日本人のリクエストに沿って一緒に歩く。「自分はプロではないので完璧なガイドはできない」といつつ、下見やガイドのための資料作りにも努力をいとわれない。なるべく街の歴史を紹介できるように自ら歴史の勉強も重ねているという。

歴史を知るのが一番の楽しみ

そんな胡さんに街歩きのコツやオススメスポットについても伺った。街歩きの魅力については、やはり一般の観光ではわからないような、歴史ある建築物や場所の探索にある。「外灘や魯迅公園などの有名スポットでも、日本に関わる場所が意外と知られていない」と胡さん。また中国の近代史に興味ある人には、著名人の旧居が集まる華山路エリアを案内するそうだ。ほか、絶えず都市開発が進む上海で、今しか見られない街の移り変わりを眺めるのも「興だ」というわけで胡さんガイドのもと、開発取り壊しが進む「夢花街」へ繰り出してみた。

変わりゆく夢花街を歩く

消えゆく街並みを惜しむ

「豫園」近くにある「夢花街」。市中心にありながら、オールド上海の暮らしを留めた街として知られていたが、昨年からとうとう住民の移転や住居の取り壊しが始まった。今回はここを胡さんと歩く。



▲区画によってレンガの色や門の飾りに違いがある。胡さんと丁寧に見ていく



▲少しだけ残っている商店。ピーナッツを炒る窯は今ではもう珍しい



▼この一角は住民が立ち退き済。窓やトビラはコンクリートで固められていた



2017年



▲弄堂を一步入ると昔ながらの住まいが。ここも近々取り壊し予定だ



2009年

▲古本市場として賑わっていた文廟も今は閉鎖。ここは取り壊されることはないようだ



2020年

▲アニメグッズやガンブラの店が並んでいた文廟路。今は軒並み移転済みだ



過去と未来を想像して
一方、夢花街を進んでいくと、弄堂ではなく別荘タイプの住居が見えてきた。住居の色や形を見ながら胡さんと、「これは将来取り壊しかな、これはリノベートされるかな」など話しながら歩く。時折スマホで昔の上海の写真を見せてくれるが、昔の街並みとこれからの設計を頭に思い浮かべ、何とも楽しい街歩きだ。最後にイスラム系の寺院「小桃園清真寺」を発見。色々な宗派の施設が密集しているという意外な一面を知り、ツアー終了となった。

現地の人から語られる物語は、歴史上の事実だけでなく生活感と雑学に溢れており、本当におもしろい。一緒に歩く人や時間によって感じ方が変わるのも「City Walk」の醍醐味。夢花街の開発がすっかり終わった頃、また胡さんと歩いてみたい。